

## 赤十字会員増強運動月間 活動資金第一号贈呈式



日本赤十字社の会員増強運動月間が5月1日に始まったことを受け、同日沖縄県庁において、赤十字会員増強運動月間の活動資金第一号贈呈式が執り行われました。

日本赤十字社沖縄県支部長である玉城デニー知事は、「赤十字の人道支援活動は、皆様から寄せられる善意の浄財により可能となる」と呼びかけ、国内外での日赤の活動を紹介。贈呈式では、沖縄県金融協会の与儀達樹会長から玉城デニー支部長に対して、令和7年度活動資金第一号となる300万円が贈呈されました。



県金融協会と儀達会長（左から3人目）玉城支部長（同4人目）



親泊一郎前副支部長へ金色有功章を贈呈

また、平成9年から令和7年までの約28年間の永きにわたり、沖縄県支部副支部長としてご貢献された親泊一郎前副支部長へ赤十字活動の功労として、玉城デニー支部長から金色有功章が贈られました。

「人の命と健康、尊厳を守る」赤十字の活動は県民の皆さまのご寄付により支えられております。今後とも人道の実現を目指す赤十字活動へのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 令和7年 全国赤十字大会開催

5月13日、明治神宮会館（東京都）にて、令和7年全国赤十字大会が日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、並びに名誉副総裁を務める各妃殿下のご臨席のもと執り行われました。

同大会には、全国から集まった会員やボランティア等の代表約1,400人が出席し、沖縄県支部からは上間優理事（副支部長）、前田貴子代議員（副支部長）、中城村の比嘉麻乃村長（分区長）、地区分区職員、奉仕団員等を含む総勢21名が参加しました。

大会では、皇后陛下により赤十字の活動を支援する個人および法人の代表に有功章が授与されました。

活動報告では、青少年赤十字の一員として活動する福井県の印牧弥音さんが、地元の郷土料理からスコーンを開発・販売し、その売り上げを東



明治神宮会館前にて大会参加者記念撮影

ティモール並びに能登半島大雨災害義援金として寄付したことを報告しました。

また、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の稲田眞治医師は、能登半島で発災した地震災害と大雨災害における救護活動やこころのケア活動について報告しました。



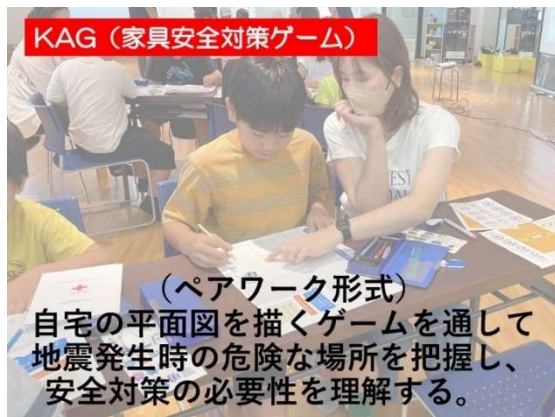


# 赤十字の防災教育

災害からいのちを守るための防災教育、**講師派遣**を行っています。

日本赤十字社では、平時より「いざ」という時の「備え」のための「**赤十字防災セミナー**」に力を入れています。

令和6年度は開催回数67回、のべ約2,600名の皆さまに受講いただいています！



《お問い合わせ先》 日本赤十字社沖縄県支部 事業推進課 崎山

[TEL:098-835-1180](tel:098-835-1180) Mail:kyugo@okinawa.jrc.or.jp

ホーム

ページ



銀行等の窓口を訪問することなく、ご自宅からご寄付いただくことが可能です。

継続的なご支援によって赤十字の活動は支えられています

1日約70円からはじめられる、苦しんでいる人を「救うこと」。

<p>たとえば毎月 <b>2,000円</b> のご寄付で 安眠セットを年間 <b>8人分</b>備える</p> <p>避難所での夜を少しでも快適に過ごしていただけるようキャンプマット、枕、アイマスクなどをセットにした「安眠セット」を年間8人分備えることができます。</p>	<p>たとえば毎月 <b>3,000円</b> のご寄付で 緊急セットを年間 <b>24人分</b>備える</p> <p>災害発生直後からの避難所生活時に必要となるものが一式収納された「緊急セット」を年間24人分備えることができます。</p>	<p>たとえば毎月 <b>5,000円</b> のご寄付で バングラデシュ避難民に こころのケアを 年間<b>600人</b>に行える</p> <p>日本赤十字社の職員は、バングラデシュ避難民が先の見えない生活の中で少しでも安心できるように、悩みを聞いたり、相談になる活動を行っています。年間600人分のこころのケアを行うことができます。</p>	<p>たとえば毎月 <b>10,000円</b> のご寄付で 年間<b>1台</b>の トイレ整備ができる</p> <p>シリア難民キャンプの不衛生なトイレ環境を整えることで感染症を防ぎ、衛生状況を改善することができます。年間1台のトイレを設置することで健康とプライバシーを守る活動を行うことができます。</p>
---	---	---	--

クレジットカードによるご寄付のお申込みはこちら

日本赤十字社 寄付 検索

インターネット：<https://donate.jrc.or.jp/lp/>

